

**令和3年10月 佐賀市長就任記者会見（※記者会見の内容を一部要約しています）**

**日時：令和3年10月25日（月） 14時00分～14時56分**

**場所：佐賀市役所 2階 庁議室**

**出席：坂井市長**

**【司会】**

それでは定刻になりますので、ただいまから、坂井市長就任記者会見を始めます。お願いですが、本日の記者会見は、佐賀市のホームページでライブ配信しておりますので、マイクを使ってご発言ください。

**【市長】**

皆さん、こんにちは。佐賀市長に新しく就任しました「坂井英隆」です。本日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。改めて、自己紹介をさせていただきます。

私は、幼稚園から高校まで佐賀市で育ち、大学入学と共に東京に出ました。幼稚園の時に家が火事で全焼し、地域のさまざまな人の支援や助けをいただきました。そうした皆さんの優しさや恩をいただき、いつか恩返しをと政治家を志すようになりました。

弁護士として法律を学び、そして、国交省で災害対策や交通対策の担当官として働いてまいりました。

その国交省で、地域課題の解決を担当し、地域課題の制度設計や予算の仕事に向き合う中で、ひとつ確信したことがあります。それは、これからは「地方の時代」である、複雑化する課題への対策の実践は、「自治体であり、地域の皆さまである」ということです。

最近の自然災害やコロナ禍の影響による経済の停滞など、佐賀市のニュースを見たり聞いたりするたびに、ふるさとに戻ってなんとか佐賀のお役に立ちたい、働きたい、汗を流したいと考えるようになりました。そして今回、多くの市民の方々の負託をいただくことができました。

まず、選挙戦についてお話ししたいと思います。今回の選挙は一時期、7名が立候補表明を行い、最終的には6名での選挙戦となりました。私は、5月に最初に立候補を表明してから多くの方のご意見を聞きたいと思い、市民の方をはじめ企業や農林水産業の方など、たくさんの方と話をしました。そこではやはり、このコロナ禍における生活の苦しさや、先行きが見えない不安、水害対策への不安の声をお聞きしました。そして何より、停滞している佐賀市を変えてほしいというご意見を多くいただきました。

そして、選挙戦を行う中で、他の候補の方々も佐賀市を今よりもよくしたい、市民の皆さまが安心して生活できる佐賀市にしたいという想いは同じであると感じておりました。

私は、市民の、そして他の候補者の方々の、このような想いを預かり、そして、佐賀市を輝かせることが使命だと、改めて責任の重さを痛感しております。

次に、政治姿勢についてお話しさせていただきます。私は、選挙において「継続」か「変化」か、と市民の皆さまに問いかけました。そして皆さまの「佐賀市を発展させて欲しい、新しい風を吹かせて欲しい」という想いに後押しをいただいたと感じています。

しかし、秀島市政をすべて否定しているわけではありません。秀島市長は平成17年に合併した新佐賀市の初代市長としてこれまで市政の舵取りを行われてきました。

新しい市の一体感の醸成に尽力され、「暮らしやすい」都市として高く評価されるなど、素晴らしい実績を残されたと思います。

大切なのは、いいところは残し発展させること、そして新しいこと、市民が足りないと感じていることを、スピード感を持って取り組んでいくことだと考えています。

私の政治姿勢として、「常に挑戦をやめない、動き続ける佐賀市政」を目標にしてい

たいと考えています。常に挑戦し動き続けていれば、常に改善することができます。佐賀市の良い点を見つけ、讃え、伸ばす市政を叶えるために全力を尽くしてまいります。

ここで、私が市民の皆さまにお約束をして、そして、これからの佐賀市に必要なと思うことを5点お話しさせていただきます。

第1に、水害対策です。先ほどお話ししたように、私は国土交通省で主に水害対策を担当しておりました。西日本豪雨災害をはじめ、さまざまな水害が発生したときに、その最先端で働き、知恵や技術を学んだいわば「水害対策のプロ」です。佐賀市の水害対策、これは一言でいうと「水はけ対策」です。集中豪雨や台風が襲来した際に、一時期に雨量が増加し、その水を流すことができずに、被害が発生しています。この対策は、すぐに効果が出るものばかりではありません。

しかし、少しでも被害を軽減し、市民の皆さまに安心して生活してもらうことはできます。そのために、ハード面では、「高出力の排水ポンプ」の増設や、河川の改修、そして、下流域の皆さんの協力をいただいて、樋門管理の連携の強化を進めます。

ソフト面では、被害が起きそうな場合に、AIを活用し、事前に災害予測を行い、避難誘導を迅速に行い、被害を最小限に食い止めます。

さらに、避難が必要な場合には、安全に避難でき、そして、不安なく過ごせるような避難所の運営の在り方の検討を進めます。災害発生時には、よく「想定外の規模」と言われます。しかし、近年の状況を見ていると、むしろ「想定外の災害は起こりえる」ということを前提にすべきです。過去の事例から判断するのではなく、AI等を活用したシミュレーションを行い、できるだけ想定を重ねて備えるべきだと考えています。

第2に、経済対策を含むコロナ対策です。コロナ対策やワクチン接種、そして経済対策の最も重要なテーマは「スピード感を持って、取り残さない」ことです。ワクチン接種は早ければ12月から3回目の接種が予定されています。佐賀市では、これまで以上にワクチンの確保に努め、接種についても、日本に限らず、さまざまな成功事例を研究し、接種率で日本一と言われるように進めていきます。

さらに、医療・福祉従事者などのエッセンシャルワーカーの方々への支援も迅速に検討します。

そして、今後とも新型コロナウイルスのような感染症の危機に迅速に対応するために、保健所の設置の検討を進めていきます。

経済対策としましては、まず、コロナ禍で打撃を受けている商工業、農林水産業、観光業の方々の誰も取り残さないように、地域振興券を早急に発行し支援していきます。

他にも、コロナ禍でニーズの増えたテレワーク、キャッシュレス決済などの機器の導入支援をします。観光面では、アフターコロナの外国人観光客のおもてなし対策や、歩いて楽しめるインバウンド観光の充実に取り組みたいと思います。

中長期的な経済対策といたしましては、今後、「さがんまち経済戦略」を議論することになりますが、経済対策において、最も重要なのは、雇用創出だと考えています。

佐賀市では、高校と大学卒業時に若者が県外に出て行っています。これは改善する必要があります。そのために、まず、販路開拓や新商品開発など、地元事業者を支援して、新しい「佐賀ブランド」をドンドン創出します。また、IT企業のみならず、ヘルスケア、アウトドア関連など、新しい企業誘致に取り組み、雇用とビジネスを創出します。

私は東京で多くの人脈を形成してきました。また今回の選挙を通じて、その輪が広がっております。その中には、急成長企業で活躍されている方も大勢いますので、人脈をフルに活用して、自ら企業誘致に奔走します。

次に中心市街地の活性化です。このエリアは街の顔で、発展は必ず必要です。しかし、残念ながら現状は、空き地・空き家が散在し、県都の中核としての中心市街地本来の姿には道半ばの状況です。

まずは、空き地や空き家を逆に利用して、緑あふれるおしゃれなポケットパークや思わず立ち寄りたくなるようなカフェやショップが立ち並ぶ通りをつくります。周辺にさまざまな種類のテナントを誘導して、拠点をつくり、SDG'sにも配慮した「さがんまち」をつくります。トレンドを採り入れることが、その地域の活性化につながると考えます。

あわせて、IT 企業など、最先端技術を持つ企業誘致に積極的に取り組むとともに、土地の集約化を促進するなどして有効に活用し、居住人口を増やすことにも取り組みます。

第3に、子育て・教育対策です。ご承知かと思いますが、私は3歳の息子がいます。そして、12月にはもう一人、子どもがうまれます。まさに、子育て真っ最中で、乳幼児期から学齢期の子どもの保護者としての視点を持っております。

また、今後ますます女性の活躍が欠かせない時代を迎えます。そのためにも、子育て・教育環境の整備は、早急に成果を出したいと考えています。

まず、取り組みたいことは、安心して預けられる保育の環境改善です。その一環として、保育士さんの確保支援に努めます。現状、佐賀市にも保育士さんを養成する機関はあります。しかし、実際は福岡や他の都市圏で就職される場合も多いと聞いています。この方々をはじめ、佐賀市で就職したいと思っただけのように、就職される際の「就職準備金」や「家賃補助」の支援を行っていきます。

あわせて、職場環境の改善のために、ICTなどを活用された保育園や幼稚園などの補助を行ったり、保育士さんの確保とあわせて、待機児童がゼロになるために必要なことをどんどん行っていきます。

次に、学齢期への対策です。「学童保育の拡充」「少人数学級の実現」に取り組みます。施設や指導員確保の課題で、学童保育で預けたいけど預けられない高学年の児童を、なんとか安心して預けていただけるような整備を整えます。これからは、学力と共に、社会性や協調性、論理的思考やICT学習が必要です。学歴のための教育ではなく、この時代を生きる力をつけるための教育をしてあげたいと考えています。

そのためには、少人数学級の実現や、教職員の多忙化の解消に力を入れ、教職員の皆さんが子ども達と向き合う時間を確保し、「多様な個性・特性」を「多様なまま受け入れる」教育環境の整備を進めるのが大切だと考えています。

子ども達が安全に楽しく学校に通い、多様性をもってすくすく学べる、「誰一人取り残さない」環境づくりも進めていきます。

ほかにも、安心して学校に通学できる環境の整備として、通学路や歩道の総点検や、危険箇所への防犯カメラの設置など、日常生活での不安も取り除きたいと考えています。今後の佐賀市を担うのは、子ども達です。佐賀市の未来を輝かせる子育て政策に、重点的に取り組んでいきます。

第4に、農林水産業対策です。農林水産業は佐賀市の基幹産業だと考えています。

しかし、後継者不足や就業者不足、生産高が向上しないなど、多くの課題を抱えているのも事実です。私は、農林水産業に、今後、ICTを活用したスマート化やブランド化、そして、流通の促進に取り組みたいと思います。

ICTを活用したスマート化では、生産高を上げる、今までより少ない労力で一定水準以上の品質そして単価を上げることを目指して、JAなどと連携して導入していきたいと考えています。

漁業では、18年連続日本一の佐賀市の海苔を守りさらに発展させていきたいと考えています。しかし、近年の豪雨の頻発により土砂の堆積や漂着ゴミの問題など環境の悪化が

深刻化しております。私の古巣の国交省では隣の課がこの問題を担当しておりました。国交省、県、市がよく連携をして対応します。日本の宝である佐賀市の海苔を、次の世代につないで行けるよう、漁協と連携して支援していきたい。

林業について、「ウッドショック」で世界的に需要が伸びています。そうした背景をうまく捉え、森林組合を支援して佐賀市の林業の販路拡大に努めます。

最後に5点目、豊かな文化都市と最新技術についてです。佐賀市は、まちとしては素晴らしく豊かな可能性があります。そしてほかにはない地域の絆があります。これからも、住み慣れた地域で、住み続けられる佐賀市であるように、最新技術を活用して進んでいきます。

具体的には、必要な時に快適に使える交通網、自動運転コミュニティバスやデマンド交通を実現します。また、身近な公民館を行政手続きや困りごと相談、健康づくりができる拠点に進化させます。そしてスマートシティさがを目指し、市民生活にビッグデータや AI、5Gなどを活用したサービスの提供を迅速に行っていきます。

さらに、これからの時代に対する ICT 大学を設置し、企業誘致とあわせて、若者が佐賀で住み続けられる環境を整えます。

最後に申し上げたいのが、佐賀空港をアジアの物流拠点として発展させることです。経済対策や農林水産業対策を充実させるためにも、佐賀市の誇れる製品や農産物を、日本全国に、そして世界各地に販売する体制を構築し、人・モノの集積を図り、佐賀市発展の新たな礎とします。

市民の皆さんの成長するエネルギーを支えてあげられる環境を整備すること。それが市政に求められていることだと考えています。

今申し上げた5つの項目以外にも、佐賀市には多くの課題があります。

まず、自衛隊オスプレイの佐賀空港配備計画については、国防の重要性は認識していますが、佐賀県と関係漁協との間で締結された公害防止協定書と覚書の立会人である佐賀市は、当事者の議論を見守る必要があります。もし、変更が必要な場合には相互に議論を行い、賛成、反対、さまざまな意見に耳を傾けたいと思います。

次に新幹線整備は、在来線の利便性の維持、コストの点など、さまざまな課題があり、佐賀市民の利便性を向上させる方式や場所を選ぶ必要があります。これからの国と県との「幅広い協議」の経緯を踏まえて、市民目線での議論を進めていくべきと考えています。

また、駅周辺整備事業は、長年の懸案だった駅へのアクセス改善や、サンライズパークとの連携、国民スポーツ大会を契機とした活性化など、更に県都の中核としてのポテンシャルに磨きをかけたいと思います。

さらに、このような、事業と合わせて、力を入れていきたいのが情報発信です。市民の皆さまや関係者の皆さまに、タイムリーに、そして分かりやすい情報を発信することが重要と考えています。この点につきましては、本日お見えのメディアの皆さまのご協力をいただきながら、佐賀市の情報発信は変わったと実感していただけるような取り組みを進めていきたいと思います。

今回の選挙において、私は多くの方々の支援をいただきました。その中でも、岸田総理大臣から、佐賀市が進めていく、水害対策や子育て・教育対策、物流特区など「新しい佐賀市のまちづくり」を強力に支援していただくメッセージをいただきました。このようなご縁を大切にして、佐賀市のために頑張りたいと思います。

先ほどの5つの項目や課題解決は、私一人では実現はできません。市民の皆さま、市議会の皆さま、関係者の皆さま、そして、佐賀市職員の皆さまのご協力をいただいで進めるべきことだと思っています。私には、強みとして、人の話を真摯に「聞く力」を持っています。現場に頻繁に出向き、課題を受け止める、「ひらかれた耳」があります。多くの人々の意見を受け止め、皆さんと共に進む市長でありたいと思っています。

これから10年後、20年後の将来を見据え、責任を持って輝かせることが私の使命です。

皆さんの夢は、より輝くように。皆さんの幸せは、もっと大きく育つように。そして皆さんの悲しみや辛さは、少しでも減らせるように。私、坂井英隆、精一杯働く所存です。どうぞよろしく申し上げます。

#### 【司会】

それでは、質疑応答に入ります。この後の進行は幹事社さんをお願いいたします。

#### 【幹事社】

まずお伺いしたいのが、今日からいわゆる坂井市政が始まるということですけど、今のお気持ち、今日、市役所においでになったときのその気持ちというのを、お伺いできればと思います。

#### 【市長】

多くの市民の方々に負託をいただきました。本当に熱い支援をいただき、そしてその大きなエネルギーをこの選挙戦を通じて実感いたしました。本日初めて佐賀市役所に登庁しまして、改めてその責任の重さを痛感しているとともに、佐賀市をより発展させたいと思う皆さまのご期待に沿えるよう、全力で取り組んでいく所存でございます。

#### 【幹事社】

次に公約で水害対策、こちらに大きく5つ挙げられていますが、どれも大事だと思うんですけど、まずここを優先的にやりたいという政策などがあればお伺いしたいです。

#### 【市長】

水はけ対策が大事だと思っています。少しでも被害を軽減して、市民の皆さまの不安を取り除けるように全力で取り組んでいきたいと思っています。具体的には、さまざまな手段があると思います。そうした手段を組み合わせ、取り組んでいきたい。佐賀市役所の職員の方々ともしっかりと議論をして、今後速やかに対策を打っていききたいと思っています。

#### 【記者】

次に、秀島前市長はバイオマス事業や発達障害児童の支援などいろいろ取り組まれていたと思うんですが、秀島市政とどう向き合うか。例えば、この政策はこのまま進めていく、もしくはそのほかに、例えばこの施策はちょっと変えたほうがいいかなど。今、坂井市長が思われている政策を1つずつぐらい教えていただければと思います。

#### 【市長】

秀島前市長は現場を大事にされて、そして佐賀市の一体感を重視される舵取りを行われてきたと思います。1市6町1村が合併した新佐賀市の一体感を持った舵取り、そういったものは秀島市政だからこそできたことだと思います。

私自身、佐賀市を離れていた期間もあります。だからこそ、そうした秀島市長の姿勢を見ながら、現場を大切に、さまざまな市民の方々のご意見に耳を傾けていきたいと思っています。

その上で、秀島市政のいいところは残し、そして若い私ができることをもっともっとやっていきたいと思います。若さを生かして対応力をスピードアップし、水害に強いまちづくりを推進したい。また国で培った人脈やノウハウを佐賀市の舵取りにフルに活用して、経済を再生させ、住民サービスも向上させたいと思います。

バイオマス事業についてですが、循環型社会の実現に寄与するSDGsの理念に合致したこれからの時代に必要な環境政策だと思います。二酸化炭素の農業への利用など、成果を出しているところをしっかりと受け継ぎつつ、まずは実態を担当部門からもよく聞いて、本当に未来に向けて持続可能な取組となるように進化させたいと思います。

**【幹事社】**

次にオスプレイの問題ですけど、先ほど坂井市長がお話しされたように立会人としての立場をとりながら意見を見極めていくということですけど、現時点では明確には賛成、反対ともまだ言えないというような状況で考えていらっしゃるということでお間違いないでしょうか。

**【市長】**

まず公害防止協定覚書。佐賀県と関係漁協との間で締結されており、その立会人という立場である佐賀市は、当事者の議論をしっかりと見守る必要があると思っております。その上で、変更が必要な場合には議論を行って、賛成反対さまざまな市民の方々の声に耳を傾けたいと思います。

**【幹事社】**

それは新幹線の問題に対しても、さまざまな人の声を聞きながら今後の状況を見守っていくというような姿勢で、お間違いないでしょうか。

**【市長】**

新幹線についても、在来線の利便性、これを佐賀市民の皆さん、実感されていると思います。そうした利便性の維持、あとコストもかかるということもあります。そうした課題がありますので、これから国と県との間での幅広い協議が行われておりますので、その経緯を踏まえて、市民目線での議論を進めていくべきと考えています。

**【幹事社】**

オスプレイの件でまたお尋ねします。秀島前市長は先ほどおっしゃった立会人という立場を重視すると同時に、市も、例えばその旧町を引き継いで、大きな変化がある場合はそれに対して意見を述べるというような立場でいらっしゃいました。つまり当事者としての立場もあるということを秀島前市長は指摘されていましたが、坂井新市長はこの点についてはどうお考えでしょうか。

**【市長】**

佐賀県と関係漁協との間の公害防止協定と覚書の立会人という立場で、佐賀市は関わっております。そのため、佐賀県と関係漁協との間の当事者の議論を見守る必要があると思っております。その上で、変更が必要というふうになった場合は当然、相互に議論を行って、賛成反対、さまざまなご意見にも耳を傾けて判断していきたいと思っております。

**【幹事社】**

それは立会人という立場ではなく、当事者である佐賀市として佐賀県と向かい合っていくということでしょうか。

**【市長】**

公害防止協定と覚書については、佐賀市は佐賀県と関係漁協との間の協定書の立会人という立場になると考えておりますので、当事者の議論をしっかりと見守った上で判断していきたいと思っております。

**【幹事社】**

秀島前市長は、立会人という立場だけではなく、重大な変更がありうる場合、佐賀市もその当事者になりうるという立場でいらっしゃいましたけども、坂井新市長はこの点についてどうお考えでしょうか。

**【市長】**

基本的には公害防止協定書と覚書については、佐賀市は立会人という立場であるというふうに考えております。

**【幹事社】**

調印をしているわけですが、それを引き継ぐ佐賀市がその当事者ではないということでしょうか。

**【市長】**

佐賀県と関係漁協との間で締結された公害防止協定と覚書については立会人という立場で佐賀市は関わっていると認識しております。その上で、もし変更が必要だということになった場合には、佐賀市も当然、相互に議論を行って、その上でさまざまな声がありますので、しっかりと耳を傾けて判断していきたいと思っております。

**【幹事社】**

佐賀市としてもその当事者として、環境の大きな変化ということになるわけですから、公害防止協定の覚書とはまた別に、当事者として向かい合っていくという理解でよろしいでしょうか。

**【市長】**

私が申し上げているのは公害防止協定と覚書というのがまずあるので、その約束というのは非常に重いものでありますので、そこのしっかりとした当事者間の協議を立会人という立場で見守るということを申し上げているという趣旨でございます。

**【幹事社】**

佐賀市も当事者としての立場を引き継いでいると私は理解しておりますが、市長のお考えはいかがでしょうか。

**【市長】**

公害防止協定書と覚書については、立会人という立場であると。その約束について、今当事者間で議論を行われておりますので、その議論をしっかりと見守っていくということでございます。

**【総務部長】**

補足をさせていただきます。先ほど市長が申された部分、あくまで県と漁協との協定の立会人としての立場がまずあるということで、今、県と漁協との覚書の部分、当事者同士での話、やりとりを行っている最中でございますけれども、それが終われば当事者として

市も協定がありますので、その次の段階として、協定の内容について詳しく検討していくというところがございます。

【幹事社】

佐賀市長は今のご説明でよろしいでしょうか。

【市長】

多分順序の問題で、まず今、公害防止協定と覚書の当事者間の協議というのが行われていることについては、佐賀市は立会人という立場で関わっているということと、先ほど総務部長から補足いただいた、もし変更が必要となったという場合には、しっかりと議論をしていく必要があるというふうに思っています。

【記者】

坂井市長が先ほど会見でおっしゃった部分で、保健所の設置を目指すということですが、確か中核市でないで保健所というのはつくれないと理解していたんですが、まず、お尋ねしたいのは中核市を目指されるのか、そしてその中核市を目指されるとしたら、意図と、いつごろの時期ぐらいまでに立ち上げられるのか。私の記憶が正しければ、確か九州内の県庁所在地でまだ中核市になってないのは佐賀だけだったかと思うんですけども、その辺りのことも含めて教えていただければ。

【市長】

中核市を目指すかどうかということについて、中核市を目指すことも検討していきたいというふうに考えております。具体的にいつごろまでというところはまだ、初日でありますので、しっかりと市役所内でも説明を聞いて議論をしていきたいと思っております。

【記者】

議会との関係性に関して質問ですけれども、市長選で坂井市長を推薦した自民党の市議の半数が坂井市長の対抗馬を支持する形になったと思うんですけども、今、市長選が終わってまだ1週間ぐらいしかたっていないので、しこりみたいなものは残っているかどうかということと、あとこれから、議会との関係はどのように関係性を築いていかれるか、ご回答をお願いいたします。

【市長】

市長選挙についてはさまざまな方が手を挙げられました。それぞれの方が私とまた違った特徴のあるキャリアを持っておられて、そしてそれを選挙戦で訴えられていました。そういう中で、相互に刺激をし合って高め合う、そして市民の方々も政策議論が進んで、そして選挙戦が盛り上がり市民の方々にとってもよかったのではないかと考えております。

そうした中で、私が国交省におりまして佐賀市を離れた期間もあったので、全ての方々が、坂井を支援するというふうにならなかつたというのは、これはやむを得ないことかなと。むしろ、自然なことかなと思います。

大事なものは、これからでして、私がこれまで訴えてきたことを実現していくためには、佐賀市の執行部と、そして議会というのが両輪になって連携していく必要があると思っております。そうした関係を築けるように、私自身、「志高く、頭低く」ということを、私の信条としておりますが、そうした姿勢で臨んでいきたいと思っております。

【記者】

物流特区構想について伺いたいんですけども、どのようなスケジュール感もしくは手



法で実現させていくおつもりなのか。あともう1点、福岡空港などアジアのハブ空港を目指しているところが多いと思うんですが、その中でも佐賀空港が国際物流拠点になれると思うポテンシャルはどこら辺にあるというふうにお感じですか。

**【市長】**

佐賀市の持つポテンシャルを生かすために、佐賀のすぐれた製品や農産物を全国、そして世界に発信をしていきたい。そうした人・物の集積を図るための物流特区構想というのを検討していきたいと思っております。具体的に、これは国との調整も必要になってきますし、どういう形で実現していくかというのはまた、具体的なところはよく議論をして、検討していきたいと思っております。

**【記者】**

今行われている衆院選に関連して2点お伺いいたします。この前の23日、坂井市長にとっては初公務となりましたが、その23日土曜日に、衆院選佐賀1区の自民党候補の応援マイクを握られたかと思えます。そのことについて応援のマイクを握られた理由をまずお聞かせいただければと思います。

2つ目として、今回の市長選に当たっても自民党の推薦を得られて強力なバックアップ体制も敷かれたと思います。今後自民党や、あるいは自民党が推し進めるもろもろの政策について、市長という立場、一政治家としてどういうふうに向き合うか、ご回答をお願いします。

**【市長】**

今回の市長選挙で、私は無所属で自民党の推薦をいただくという形で、選挙戦を戦ってまいりました。そうした中で、自民党の推薦というのも一つ大きな力にはなったと思えますし、また一方で、そういう政党に関係なく、無党派の方々とか、私自身41歳と若いので、あまり政治に普段関心が強くない若い世代の人たちも、今回、私の訴えに共鳴していただいて、応援をしてくれたということが、今回の選挙は大きかったなというふうに思っております。

これからの向き合い方と申しますと、私自身、国の職員として仕事をしてきて思ったのは、国との連携というの、これからの時代、自治体レベルでしっかり連携をしていくということは大切になってくると思います。その視点というのは、自治体の側から国を動かしていくということが大事になってくるかなど。国の言うことをそのまま受け入れるのではなくて、私は佐賀市で育って、佐賀が大好きな人間として、そして、国の仕事も熟知している、経験してきた人間として、これをこれからの佐賀市の発展のために、フルに使っていききたい。そのために、必要に応じて国のほうに、「佐賀市のために動いてくれ」と働きかけをしていききたいと思っております。

そうした中で、与党の議員の方々との連携をするという機会も、これから活用していきたいというふうには思っております。

**【記者】**

ということは、国への地方自治体からの働きかけの一環として与党の方との連携を考えて、今回マイクを持つなどの活動をされたということでしょうか。

**【市長】**

必要なのは佐賀市の発展のために使えるものを、いろんなツールがあると思います。そして、これから私は地方が輝く時代だと、地方が主役の時代だと思っています。そのときに地方の声をしっかりと国に届けていく必要がある。そうした1つの方法として、議員の方々との連携というの大切にしていききたいと思っております。

【記者】

坂井市長の得票数は43,000票余りでしたが、そのほかの方に願いを託した有権者の方もそれ以上の数いらっしゃいます。そうした方々の声をこれからどのようにくみ取っていかれるおつもりかをお尋ねできたらと思います。

【市長】

少し先ほども述べましたけれども、ほかの候補の方々もそれぞれ佐賀市をよくしたいという思いで、いろんなリスクを負われて今回の選挙戦を戦われたと思います。市民の皆さまが安心して生活できる、そして活力のある佐賀市にしていきたいという思いは共通する部分もあると思います。

選挙を戦って、改めて私自身もそうした議論を重ねることで自分自身、より考えが深まったと感じております。大切なのは、これからの佐賀市の市政運営、より佐賀市を輝かせるために今回の選挙戦を通じていろいろ学んだこと、そしてこの御縁が広がったこと、これを大事にしながら、さらに私、坂井英隆に投票してない方もいらっしゃると思います。そうした方々も含めて、私の政策をしっかりとわかりやすく説明して行って、情報発信もどんどんして行って、若い首長ですので、身近な佐賀市政で、動きが見える、そういう佐賀市政を目指していきたいというふうに思っております。

【記者】

いちばん最初に水害対策を掲げておられますので、水害対策に関して質問ですけれども、水害対策はやはりハード面になるとすごく時間がかかるもので、災害自体も激甚化していて、2年前や今年よりも大きな被害が来るかもしれないとなると、水害対策をしたとしてもその効果を実感しにくい部分もあると思うんですね。それ以上の雨が降ってしまうと、結局被害が大きくなっているじゃないかと。どのようにして市民の方々に、結果を出していくか、効果を感じてもらおうとか、いつまでにこういうことをするとか、市民の方々に分かるようにその対策を打っていくっていうところは、どのように考えておられるでしょうか。

【市長】

おっしゃったとおり、ハード面とソフト面の両方を組み合わせて対応していく必要があると思います。

ソフト面では、先ほど申し上げたように、想定外の規模というふうに言われているんですけども、想定外の災害が起こるということを前提にシミュレーションを行って、その上で被害が起きそうな場合に、災害予測そして避難誘導を迅速に行っていく。いろんな技術を活用していくことでわかりやすい避難誘導ができるかと思っておりますので、そうした方法を組み合わせていきたいと思っております。

ハード面につきましても、これまでもさまざまな対応はされていたと思いますが、そういったわかりやすい情報発信をどんどんして行って、そしてハード面の対策も含めて、市民の方々に「見える化」をしていきたいと思っております。

【記者】

先ほどお話の中で、「若い世代の方にも共鳴していただいて・・・」というようなことがありましたけれども、6人の方が立候補されて、市長自身若い方の票を集めながらご当選されたんですが、56.03%という、「そこまで伸びなかったな」という投票率だったかと思っております。今、衆院選真っ最中ではありますが、そういった選挙に関心を持たれる、自分たちの1票を投じるんだというような、そういったところを伸ばしていくためにどんなことができるかなど、お考えになっていることがあれば教えてください。

**【市長】**

今回の選挙でもSNSを活用した情報発信を取り組んでおりました。コロナ禍ということもあって、集会などがこの選挙ではなかなか制限があったということもありますので、いろんな方法を、トライアルアンドエラーでやってきましたけども、結構反響があったと実感しております。

やはり政治への関心、「1票を投じて何も変わらないのではないか」と思っておられるような若者も多分多いと思います。そうした若者たちにも、自分は世代が近いということもありますので、政治が「市民の意見というのがしっかりと形として変わるんだ」と、そして「市政が動いているんだ」ということがしっかりと伝わるような形で、SNSなども活用しながら政治への関心と、そしてやっぱり大事なものは、市役所の方ももちろんですし、議会もそうですけども、市民の方々と一緒になってこの佐賀市を変えていくということ。佐賀市を切り開いていくということ、それが大事だなと思っております。私は、司令塔として、しっかりとわかりやすい情報発信を心がけていきたいと思っております。

**【記者】**

先ほどオスプレイの質問が出ておりましたが、オスプレイに関する佐賀市の協定としては2つあります。県と漁協が結んでいる公害防止協定の立会人という立場。そして、もう1つは佐賀市と県が結んでいる空港の運用を変える際の公害防止協定の当事者としての立場。2つの立場がございまして、先ほど市長としてのお考えはおっしゃっていたので、法律のプロとして見られたときにこの協定は法的にはどういうものなんだという、今のご見解をお尋ねしたいなと。

**【市長】**

やはり順序が大事、私はプロセスが大事だと思っております。オスプレイについては国防に絡むものなので、その国防の重要性というのは十分認識しておりますけれども、重い公害防止協定というのがあります。そこの覚書と附属資料というのがあります。その中で「(佐賀空港は)自衛隊と共用しない」と書かれているということでございまして。そうした中身を変えるかということについては、県と関係漁協の当事者間で議論をされているということがございまして、その議論をしっかりと見守っていく、そこは立会人という立場で見守っていく必要があると思っております。

その先の話については、まだ当事者間で議論をされているところでございまして、こちらから軽々に申し上げることは出来ないと思っております。もし変更が必要ということになったら、当然相互に議論を行って、賛成反対さまざまな声があるということも、いろんな方に、ご意見を伺って承知しておりますので、さまざまなご意見に耳を傾けて判断していきたいと思っております。

**【記者】**

つまり、今繰り返されたということは、やはり法的に見てもこうしたその協定をしっかりと守っていく、対応していくという必要があるということは、法律家としてもそう考えられてらっしゃるという理解でよろしいですか。

**【市長】**

先ほど申し上げた理解のとおりでございまして。

**【司会】**

それでは、以上をもちまして坂井市長就任記者会見を終わります。本日はありがとうございました。